※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０２４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	(学)世界史特論	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説世界史」（山川出版社）						
副教材等	「最新世界史図説タペストリー二十四訂版」（帝国書院）、「新世界史研究ノート応用編」（啓隆社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・勉強法としては、授業を存分に活用することと、そのための入念な予習が肝心です。授業をしっかり理解できれば、復習に多くの時間を割く必要はありません。そのためにも、予習する時間を必ず設けましょう。そのうえで、わからない部分があれば、授業中であっても担当者に質問してください。
・日々の予習の仕方ですが、教科書を読んで学習内容を大まかにおさえましょう。語句や年号を暗記するのではなく、難しいと感じる部分や、わからない部分を探すことを意識しましょう。
・日々の復習の仕方ですが、授業や取り組みの意図や狙いについて、また授業で得た新たな理解や新たに浮かんだ疑問について再確認しましょう。語句や説明を暗記しなおすことに時間をかける傾向があるようですが、授業へ参加する姿勢を振り返り、改善していく時間にしましょう。
・どんな歴史的出来事にも、その背景には名も知れぬ人々の営みがあります。教科書数行の出来事の裏に、様々な人々の判断や選択、そしてそれにともなう迷いや葛藤があることに思いを馳せながら、理解を深めてください。

2　学習の到達目標

「歴史総合」の学習で身に付けた資質・能力を基に、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　文明の成立と古代文明の特質	第1節　文明の誕生 ・自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、文明誕生の基礎について理解する。 ・おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。	a: 都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 b: 壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。 c: 文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節　古代オリエント文明とその周辺 ・オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ・メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ・シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ・クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ・アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	a: オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 b: ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第3節 南アジアの古代文明 ・南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。 ・南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ・アーリヤ人の進入が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。	a: 南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。 b: ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。 c: 南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第1章　文明の成立と古代文明の特質	第4節 中国の古代文明 ・東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。 ・殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ・戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。 b: 青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第5節 南北アメリカ文明 ・北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。 ・中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 南北に長く広がるアメリカ大陸の各地で、それぞれの地域の環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。 b: 南北アメリカ文明に共通する特徴、とくにユーラシアやアフリカの古代文明とは異なるものを多面的・多角的に考察し表現している。 c: 南北アメリカ文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第2章　中央ユーラシアと東アジア世界	第1節 中央ユーラシア――草原とオアシスの世界 ・中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ・騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ・遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ・オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 中央ユーラシアの厳しい環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。 b: 風土を示す写真や『史記』匈奴列伝などの資料をもとに、中央ユーラシアの人々の動向が、世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 中央ユーラシアの動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第2章　中央ユーラシアと東アジア世界	第2節 秦・漢帝国 ・新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ・漢の支配体制の変遷を理解する。 ・統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。	a：秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。 b：兵馬俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c：秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第3節 中国の動乱と変容 ・遊牧民族の動きと魏晋南北朝の動乱との関係について理解する。 ・魏晋南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ・魏晋南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。	a：魏晋南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。 b：「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晋南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 c：晋南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第4節 東アジア文化圏の形成 ・①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。	a：隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 b：壁画などの図像資料や『旧唐書』輿服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c：東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第3章　南アジア世界と東南アジア世界の展開	第1節 仏教の成立と南アジアの統一国家 ・仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ・南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ・クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 b: インド洋航海図（地図）や『エリュトゥラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 c: 南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 ・グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ・8～10 世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。 ・ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。	a: インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。 b: それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。 c: インド古典文化とヒンドゥー教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第3節 東南アジア世界の形成と展開 ・東南アジアの風土について他のアジアや日本と比較したうえで理解する。 ・東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。 b: 東南アジアの風土や地形をふまえたうえで、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 東南アジアの諸国家について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第４章　西アジアと地中海周辺の国家形成	第1節 イラン諸国家の興亡とイラン文明 ・アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ・パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ・パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的･多角的に考察し表現する。	a: アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 b: ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節 ギリシア人の都市国家 ・ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ・スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的･多角的に考察し表現する。 ・民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ・ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的･多角的に考察し表現する。 ・ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的･多角的に考察し表現する。 ・ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的･多角的に考察し表現する。	a: アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 b: オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第3節 ローマと地中海支配 ・ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで多面的･多角的に考察し表現する。 ・地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ・ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ・「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ・ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的･多角的に考察し表現する。 ・ローマ帝国の文化的意義を多面的･多角的に考察し表現する。	a: ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 b: モザイク画などの図像資料や「神皇アウグストゥス業績録」などの資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 古代ローマについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第4章　西アジアと地中海周辺の国家形成	第4節 キリスト教の成立と発展 ・キリスト教の成立の経緯を理解している。 ・ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。	a：勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。 b：当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。 c：キリスト教の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第5章　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	第1節　アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ・アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。 ・ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ・アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ・イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ・イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	a：イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。 b：イスラーム政権の拡大を示す地図やアラベスクなどの図像資料などをもとに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c：イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだして，見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節　ヨーロッパ世界の形成 ・ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ・ビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較したうえで理解する。 ・ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・カールの戴冠が世界の歴史において持つ意義について理解する。 ・ノルマン人が西ヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解する。 ・西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。	a：西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。 b：荘園の構造を示す概念図や『ガルベール＝ド＝ブリュージュの日記』などの資料をもとに、西ヨーロッパに成立した封建社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 c：ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	第1節 イスラーム教の諸地域への伝播 ・イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 ・南アジアにおいてイスラーム教が受け入れられていった経緯を理解している。 ・東南アジアにおいてイスラーム化が進んだ背景について考察し表現している。 ・アフリカにおいてイスラーム化が進んだ要因を考察し表現している。	a: 中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。 b: 『トルコ語・アラビア語辞典』序文などの資料をもとに、イスラーム教の伝播・拡大においてトルコ人の果たした役割を多面的・多角的に考察し表現している。 c: イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節 西アジアの動向 ・トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現している。 ・十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 ・マムルーク朝のもとでのカイロの繁栄がどのように実現したのか理解している。 ・イベリア半島におけるイスラーム勢力の興亡について理解している。	a: アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてイスラーム教徒（ムスリム）の連帯が維持されたことを理解している。 b: トルコ人の進出・十字軍遠征・モンゴル勢力の襲来といった外圧が、西アジアの社会へおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 変動する西アジアの情勢について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	第1節 西ヨーロッパの封建社会とその展開 ・中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ・十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ・中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。	a: 中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。 b: 中世都市の景観を示す図像資料や当時の交通路を示す地図をもとに、十字軍が西ヨーロッパに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 中世の西ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	第2節 東ヨーロッパ世界の展開 ・ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について理解する。 ・スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。	a: ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解している。 b: 西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第3節 西ヨーロッパ世界の変容 ・封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ・各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ・百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ・スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。 ・神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。 b: 大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第4節 西ヨーロッパの中世文化 ・中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。 ・西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。 ・中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 中世の西ヨーロッパの文化について、キリスト教の影響が大きかったことを理解している。 b: 大聖堂の写真や大学の講義風景を描いた図像資料などをもとに、中世の西ヨーロッパの文化的な特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 中世の西ヨーロッパの文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	第1節 アジア諸地域の自立化と宋 ・10 世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ・宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ・宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ・宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	a: 10～12 世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 b: 「清明上河図」などの図像資料や荘綽『鶏肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引きおこした変化を多面的・多角的に考察し表現している。 c: 10～12 世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節 モンゴルの大帝国 ・モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 ・モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。 ・モンゴル帝国解体の要因を理解する。 ・ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。	a: モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 b: モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。 c: モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第9章 大交易・大交流の時代	第1節 アジア交易世界の興隆 ・モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。 ・明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ・明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響を理解する。 ・明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・16 世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解する。	a: 「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 b: 「南蛮屏風」などの図像資料や鄭暁『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 c: アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第９章　大交易・大交流の時代	第2節 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ・ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。 ・中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。 ・16 世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。	a: ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 b: ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第１０章　アジアの諸帝国の繁栄	第1節 オスマン帝国とサファヴィー朝 ・オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ・オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ・オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ・サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	a: オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 b: オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 c: オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだして，見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		第2節 ムガル帝国の興隆 ・ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ・ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ・ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。	a: ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。 b: ムガル帝国時代の細密画などの図像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c: ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第１０章　アジアの諸帝国の繁栄	第3節　清代の中国と隣接諸地域 ・清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ・清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ・漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	a:　清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 b:　皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。 c:　清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度	・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

第 11 章以降の内容は「世界史セミナー」にて取り扱うものとする。

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度